

全国教発第 2012060101 号
平成 24 年 6 月 1 日

各都道府県教育委員会国際教育担当主管課長 様
各都道府県（高等学校）国際教育研究協議会会長 様
各都道府県（高等学校）国際教育研究協議会事務局長 様
各高等学校・中等学校・中学校長 様
各学校国際教育担当教諭 様
関係諸機関およびNPO・NGO・企業 担当者各位

全国国際教育研究協議会
第 49 回全国国際教育研究大会
東京都国際教育研究協議会
会長 松本光正
(東京都立工芸高等学校長)
(公印省略)

第 49 回全国国際教育研究大会(東京大会)のご案内

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、高等学校における国際教育の推進および本会の活動につきまして、ご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、標記の第 49 回全国国際教育研究大会（東京大会）を、下記の要項のとおり、本年 8 月 23 日（木）、24 日（金）の 2 日間にわたり、東京で開催する運びとなりました。

つきましては、大会の趣旨をご理解いただき、関係教職員および担当職員等の参加に、格別のご高配を賜り、多数ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

- 1 第 49 回全国国際教育研究大会東京大会開催要項
- 2 第 32 回高校生英語弁論大会開催要項
- 3 第 12 回高校生日本語弁論大会開催要項

以上

第49回全国国際教育研究大会(東京大会)開催要項

大会テーマ「多文化共生をめざしたNPO・NGO・大学・企業との連携」

1 大会趣旨

東日本大震災に襲われた日本に、世界各地からの援助や支援の輪が広がっている。私たちは、改めて「世界の一員である」と自覚した。

本会の実践は今まで、「日本から開発途上国への援助」や「欧米先進国との交流や理解」という観点に重きが置かれていた。しかし今日、国内各所においても海外からの人々が増加し、相互に理解し協力し合いながら、多文化共生の豊かな社会を築くことが求められている。私たちはその現状を認識し、私たち自身が何をしなければならぬか、課題は何なのかなど、日本社会についても再考していきたい。

このような多文化共生社会の実現には、学校だけでなく、NGOやNPO、大学、企業などの外部機関との共同（協同）や連携が重要であると考えます。さまざまな機関との連携により、物心ともに豊かな日本社会を築く考え方や方法を共に学び、世界の一員としての自覚を持って行動できる次世代を育成していきたい。

本大会では、このような状況を踏まえ、高校生が主体的な活動を発表し共有する場として、「高校生国際協力・理解研究発表大会」を新設した。さらに分科会では、国際協力機構（JICA）や外部団体との協同企画を積極的に取り入れた。記念講演では、国際協力の最前線で活躍する山梨日立建機の雨宮清社長を講師としてお招きし、「国際協力の現場から高校生へのメッセージ」をお話いただく予定である。本大会を通じ、「世界の一員である」ことを礎に、国際社会において主体的に考え行動することについて、共に考え学ぶ場としたい。

2 主催 全国国際教育研究協議会

3 共催 関東甲信越静地区国際教育研究協議会 ・ 東京都国際教育研究協議会 ・
独立行政法人国際協力機構（JICA） ・ 特定非営利活動法人全国国際教育協会（JAGE）

4 主管 東京都国際教育研究協議会

5 後援・協賛（申請中を含む）

外務省・文部科学省・財団法人日本国際協力センター（JICE）・財団法人国際交流基金・
東京都教育委員会・神奈川県教育委員会・千葉県教育委員会・埼玉県教育委員会・茨城県教育委員会・
栃木県教育委員会・群馬県教育委員会・長野県教育委員会・山梨県教育委員会・静岡県教育委員会・
公益財団法人日本教育公務員弘済会東京支部・公益社団法人青年海外協力協会（JOCA）・
拓殖大学・東洋学園大学・山梨日立建機（株）・（株）メディア総合研究所

6 日時 平成24年 8月23日（木） 9：00～17：00
8月24日（金） 9：00～15：00

7 会場 国際協力機構（JICA）地球ひろば
〒150-0012 東京都渋谷区広尾4丁目2-24 TEL: 03-3400-7717（代表）
東京メトロ日比谷線 広尾駅A3出口から徒歩1分

8 参加対象 ※ クールビズ対応での出席をお願いします。

全国国際教育研究協議会加盟校の教職員および生徒

第32回高校生英語弁論大会および第12回高校生日本語弁論大会の出場生徒・引率者・保護者

国際協力・交流・理解、開発教育等に関心のある教職員・生徒・保護者等

国際教育や開発教育にかかわるNGO・NPOおよび企業等の役職員・会員等

9 大会日程

第1日目 平成24年8月23日(木)

- 9:00～9:30 受付
- 9:30～10:00 開会式(3F 講堂) 司会;大会副会長
主催者挨拶 大会・全国会長 松本光正(東京都立工芸高等学校長)
共催者挨拶 独立行政法人国際協力機構(JICA)
来賓挨拶 外務省、文部科学省、東京都教育委員会
来賓紹介
閉式の言葉および諸連絡
- 10:00～10:15 休憩および弁論大会準備(別室にて審査員打ち合わせ・出場生徒への事前説明)
- 10:15～12:15 第32回高校生英語弁論大会・第12回高校生日本語弁論大会(3F 講堂)
審査員紹介、審査基準説明、
高校生英語弁論大会・(小休憩)・高校生日本語弁論大会
(12:15～14:30 弁論大会 結果集計・審査・選考)
- 12:15～12:20 JICA事業の紹介
- 12:20～13:00 昼休み(昼食は、1階のカフェフロンティアも利用可能です)
- 13:00～14:15 記念講演 「地雷除去・廃絶について高校生ができること」
講師; 雨宮 清 氏(山梨日立建機(株)・代表取締役社長)
- 14:15～14:30 休憩
- 14:30～16:20 高校生国際協力・理解研究発表会(各校発表8分、質疑応答3分)
◆「The World in Japan ～在住外国人と震災～」 ハ戸聖ウルスラ学院高等学校 ジャンボ国際交流部
◆「盛農の岩手復興計画」 岩手県立盛岡農業高等学校 環境科学科森林文化研究班
◆「世界とのつながり～学び、知り、考え、行動する～」 宮城県仙台東高等学校 英語科GC受講生徒
◆「アフガニスタン女子高校生との交流」 日本女子大学附属高等学校 自治会
◆「日本語教室ボランティア」 長野県南安曇農業高校 インターアクトクラブ
◆「Tomorrow's Global Leaders : It starts with you and me」 大阪府立茨木高等学校 66期生(2年生)
◆「ラオスと高知を結ぶ海援隊型国際交流」 高知市立高知商業高等学校 生徒会
- 16:30～17:00 高校生弁論大会 および 高校生国際協力・理解研究発表会 表彰式
講評、審査結果発表、表彰、記念撮影
- 17:15～18:15 全国事務局長会議
- 18:30～20:30 教育懇談会(1階 カフェフロンティアにて)

第2日目 平成24年8月24日(金)

- 9:00～9:30 受付
- 9:30～12:10 研究発表 その1

分科会1

- ◆「地域の教育力(NPO・NGO・大学・企業)をつなぐしかけづくり」 大阪府立茨木高等学校 入交 享子
国際教育がイベント的でなく、継続的な学びとなるよう、学校生活の延長上に自然な形で作ることができないか。「多文化共生を考え、多様性受容力を鍛える」をテーマに、人権行事を、生徒が主人公となり企画運営する。授業や他の行事など点から線へ、面へと成長させていくために、また双方向の学びにするために、どのように地

域力を駆使してしかけを作っているかを発表する。

◆「教室から世界へ、世界から地域へ ～ラオス学校建設活動 19 年の歩み～」

高知市立高知商業高等学校 成瀬 孝治・弘瀬 博英

「高知ラオス会」と取り組む「ラオスに学校を贈る国際協力活動」は、本年度で 19 年目を迎え、6 校の学校建設に協力してきた。この高知とラオスの発展を目指した取り組みを通じて、地域振興活動や企画商品の開発へと、活動は波及してきた。活動を継続するためのシステムや地域とともに歩むためのヒントなど、今後の国際協力活動の在り方について参加者と一緒に考えたいと思う。

分科会 2

◆「クヌッセン機関長の遺徳継承と姉妹校提携」

和歌山県立日高高等学校 菊地 貴子

2009 年よりデンマークのフレデリクスハウン高校との交流を行い、2011 年姉妹校提携調印式を行った。この交流は、1957 年デンマーク船が紀伊水道を航行中、炎上している日本漁船に遭遇し、その船員を助けようとし、命を落としたクヌッセン機関長が縁となっている。この出来事から 50 年を経て、高校生同士の交流に至るまでの経緯、様々な人々の温かいサポートで、強く結ばれてきた両校の絆を紹介する。

◆「タイ修学旅行の学びと課題」

東京都 順天高等学校 三井田 真由美

2001 年から修学旅行で、タイ北部の少数民族(ラフ族)の村を訪問し、生活体験し、その村の環境、教育、差別などを問題について理解を深め、支援している日本との関係や支援のあり方について考え、発表している。また、HIVに感染している子どもやストリートチルドレンの子どもと交流し、現状や NGO の支援のあり方について理解を深め、私たちに何ができるか考えさせている。

分科会 3

◆「卒業後の人生をいかに生きるか、ヒントを学ぶ授業実践」

奈良県立法隆寺国際高等学校 松本 真紀

2 年「異文化理解」、3 年「イマージョン英語」では、ESD を基本とし、環境問題や社会問題を英語で学び、文化や自然の大切さとそれを後世に伝えることの意義を理解し、生徒自らが考え発表している。3 年末には学校行事「国際歴史文化フォーラム」で舞台発表している。

◆「映像を使った参加型学習～つながりを考えるESDの実践～」

筑波大学附属坂戸高等学校 今野 良祐

映像教材を用いた参加型学習(教材「私と世界」を利用)の実践発表。地球的課題やグローバル 이슈に焦点をあて、①ワークショップ形式 ②参加型学習 ③答えのない映像を用いて生徒を揺さぶる展開授業などを紹介する。

分科会 4

◆「学校設定科目『グローバルシティズンシップ』の成果と課題 ～生徒の学びの検証～」

宮城県仙台東高等学校 石森 広美

平成 22 年から英語科に学校設定科目「グローバルシティズンシップ(GC)」を設置した。その授業の内容、授業設計、評価、および生徒の学びについて検証する。1 年間の授業という継続的な国際教育の実践から生徒は何を学んだのか。そして、この実践から英語教育と国際教育の融合、また総合学習の展開等、高校における国際教育の展開の可能性を探究し、高校における国際教育の実践上のヒントを提示したい。

◆「コミュニケーションツールとしての『日本文化』～学校設定科目「日本文化」の授業～」

千葉県立松戸国際高等学校 諸岡 英明

「英語をしゃべる」のではなく、「英語でしゃべる」ために必要な知識を身につけるための「日本文化」の授業を紹介する。海外の人は、自国の文化に誇りを持っているが、日本人はどうだろう。歌舞伎・能・落語・浮世絵・焼き物・年中行事などについて説明できようか？なぜこんな素敵なのを、特別なものにしてしまったのだろうか。目からうろこ…の「日本文化」の知識を共有しよう。

分科会5

◆「多文化共生の学校づくりー外国につながる生徒の受け入れを通してー」

東京都立小山台高等学校 角田 仁

東京都の外国につながる生徒数は増加し、NPOと連携した多言語の高校進学ガイダンスの開催などその現状と課題の報告をする。また都立小山台高校定時制は、外国につながる生徒が約20%となり、出身国も10ヶ国を超え、多文化共生の学校づくりが求められている。日本語支援だけでなく、共生のための教育はどうあるべきなのか、「多文化理解」と「市民科」を柱にしたカリキュラム改革と生徒たち自身の交流活動を通してその可能性を考えてみたい。

分科会6

◆「非言語コミュニケーションと国際教育」

東京都立深川高等学校 神 久実子 ・ NPO「Ubdobe」 岡 勇樹

「音楽・アート・医療福祉を融合させたプロジェクトを通じて、あらゆる人々の積極的社会参加の推進に寄与すること」を目指すNPO法人Ubdobe(ウブドベ)代表の岡勇樹氏と共同で行った、総合的な学習の時間「国際理解」の授業の実践報告である。音楽や身体活動を取り入れた非言語コミュニケーションワークショップを通して、生徒自身が学んだことから、多文化共生のための国際教育についての可能性を考えたい。

分科会7

◆「国際教育における新しいファシリテーターのあり方」

拓殖大学国際開発教育センター 石川 一喜 ・ 国際開発教育ファシリテーター養成コース受講生

9年目を迎えた「国際開発教育ファシリテーター養成コース」での実績を踏まえ、教育現場におけるファシリテーターのあり方に関して考える。コースを修了した受講生(教員)が、コースでの学びをどう活かし、実践がどのように変化したのかを発表し、『ダイアログ(対話)』を中心としファシリテーションの可能性を提示する。

開催地挨拶、次期開催地(宮崎県)挨拶、諸連絡等

10 記念講演紹介

【講師】 雨宮 清氏(山梨日立建機株式会社・代表取締役社長)

【山梨日立建機の地雷除去への取り組み】

地雷は、世界120カ国以上におよそ1億個以上も埋設されているといわれている。地雷は、人が踏むか何らかの衝撃で爆発するまでは生き続け、60年以上経った現在もなお多く残っている。雨宮さんと地雷との出会いは1994年のカンボジアに遡る。その後、日本人技術者として様々な地雷除去機の開発にチャレンジし、カンボジアだけでなく、アフガニスタン、アンゴラなど世界各地で地雷除去にあたっている。現在、会社をあげて、様々な国際協力の最前線で活動し、積極的に講演活動も行っている。

<http://www.hitachi-kenki.co.jp/company/csr/contribution/mine/index.html>

11 大会参加申し込み方法

- <http://jafie49.net> (東京大会専用のドメイン) にアクセスし、7月31日(火)までに直接、申し込んでください。弁論大会参加者および研究発表者等も、必ず本様式にて申し込んでください。
- お問い合わせ等は、info@jafie49.net までE-mailにてお願いします。
- インターネット環境が整わない方は、大会事務局(都立六本木高校)まで、FAX(03-5411-7367)をお送りください。大会申込書等を返送します。

12 交通アクセス

- ◆ 東京メトロ日比谷線 広尾駅A3出口から徒歩1分です。
- ◆ 広尾駅までは、東京駅から地下鉄で約10分、品川駅から地下鉄やJRで約15分、新宿駅から地下鉄やJRで約20分です。
- ◆ 宿舎は、参加者各自でご手配願います。

13 経費

- (1) 大会参加費 教員；3000円 (1日・2日参加でも同額)
一般；1000円 (1日・2日参加でも同額)
高校生以下は、無料

★ 昼食は、広尾商店街などの近隣飲食店または、地球ひろば1階のカフェフロンティアにて、各自ご手配願います。

- (2) 教育懇談会費 3000円



14 大会役員および事務局

- 大会会長 松本 光正 (東京都国際教育研究協議会会長・東京都立工芸高等学校長)
大会副会長 飯沼 尚隆 (関東甲信越静地区国際教育研究協議会会長・長野県国際教育研究協議会会長・長野県南安曇農業高等学校長)
伊藤 清 (東京都国際教育研究協議会副会長・東京都立日野高等学校長)
佐藤 克芳 (東京都国際教育研究協議会副会長・東京都立深川高等学校長)
大会理事 荒野 一郎 (茨城県国際教育研究協議会会長・茨城県立土浦湖北高等学校長)
上岡 健 (栃木県国際教育研究協議会会長・栃木県立栃木翔南高等学校長)
大栗 勇一 (群馬県国際教育研究協議会会長・群馬県立伊勢崎高等学校長)
門谷修二郎 (埼玉県国際教育研究協議会会長・埼玉県立不動岡高等学校長)
福尾 俊彦 (千葉県国際教育研究協議会会長・千葉県立成田国際高等学校長)
石坂 正継 (山梨県国際教育研究協議会会長・山梨県立農林高等学校長)
森本 祥夫 (神奈川県国際教育研究協議会会長・神奈川県立磯子高等学校長)
鳥居 春仁 (静岡県国際教育研究協議会会長・静岡県立浜松北高等学校長)
前田 哲司 (宮崎県国際教育研究協議会会長・宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校長)

大会事務局長 竹山 哲司 (東京都国際教育研究協議会副事務局長・東京都立六本木高等学校)
大会事務局 増田 雅子 (東京都国際教育研究協議会事務局長・東京都立世田谷総合高等学校)
女屋 隆充 (東京都国際教育研究協議会副事務局長・東京都立練馬工業高等学校)
長村 嘉浩 (東京都国際教育研究協議会副事務局長・東京都立稔ヶ丘高等学校)
綿貫 俊之 (東京都国際教育研究協議会副事務局長・東京都立井草高等学校)
関根 雅子 (東京都国際教育研究協議会事務局・東京都立雪谷高等学校)
高島みゆき (全国国際教育研究協議会事務局長・東京都立日野高等学校)

15 大会事務局校および問い合わせ先

第49回全国国際教育研究大会・事務局長 竹山 哲司

電子メール； info@jafie49.net

電話； 03-5411-7327 (東京都立六本木高等学校)

FAX； 03-5411-7367 (東京都立六本木高等学校)